

気候変動問題は誇張されている ——もっと大事なことにお金を使うべきだ

杉山 大志 (すぎやま たいし) 一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

東大有馬純教授の招きで来日したビョルン・ロンボルグ氏にキヤノングローバル戦略研究所で講演して頂いた
ので、本稿ではそのポイントを紹介する。ビョルン・ロンボルグ氏はベストセラー「環境危機をあおってはいけ
ない (山形浩生訳)」などで知られる。気候変動問題に対して、社会全体の変化という広い文脈の下で、統計的
な分析をし、明瞭な図で説得力のある論を展開してきた。

キヤノングローバル戦略研究所 HP 動画リンク (筆者による日本語要約と Q & A 付)
https://cigs.canon/videos/20240522_8116.html

キヤノングローバル戦略研究所 HP 講演資料リンク
<https://cigs.canon/uploads/2024/05/Tokyo%20Canon%20April%202024%2045min.pdf>

ロンボルグ氏は、以下についてまず受け入れる。気候変動問題は存在し、それが人為的な温室効果ガス排出に
起因するものであること。また、IPCC がまとめている気候モデルによる気候変動の予測や、それによる災害な
どの悪影響の増加についても、それを前提として話を進めてゆく。

その上で、いくつも重要な指摘をする。

- ・気候変動問題は誇張されている

強いハリケーンの数が増えていない (下図)。ハリケーンが来る度にメディアは気候変動のせいで激甚化した
と騒ぎ立てるが、根拠が無い。

